

R7-R9年度

# 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト

## 前事業（R4-6年度）の成果

- 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と学習評価の改善に向けた取組の浸透
- 各校の教育目標に基づいた各教科の身に付けるべき資質・能力の設定と、PDCAサイクルの確立
- 目標と、指導・評価・改善の取組の公開
- 1人1台端末の活用

## 前事業（R4-6年度）の課題と、社会からの要請

- 変化の激しい社会の中で新たな価値を創造する人材の育成に向け、現状の一斉授業スタイルからの脱却が求められている
- 1人1台端末を更に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実が求められている
- 課題解決型の探究活動やSTEAM教育等の教科横断的な学びの充実が求められている

多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりして学習を進めていく「生徒主体の授業への教育観の転換」を図ることにより、生徒一人ひとりの関心・意欲や特性に基づいた学びを実現する。 『山梨県教育振興基本計画』

## 3年間の具体的な取組内容

- ◆校内研修の実施
- ◆不断の授業改善
- ◆授業改善推進会議での情報共有
- ◆生徒・保護者、地域社会への取組の情報公開
- ◆プロジェクト報告書

年度末

A

- ◆プロジェクト計画書
- ・スクールポリシーを踏まえた各教科等の目標設定と共有
- ・生徒主体の授業への転換のための取組テーマ設定と共有
- ◆授業改善推進会議

P

年度初め

年2回

C

- ・授業アンケートの実施と中間評価  
→結果の分析と共有
- ・授業アンケートの実施と年度末評価  
→結果の分析と共有

通年

D

- ◆取組テーマに沿った授業の計画と実施
- ◆各教科等の目標の実現に向けた授業の計画と実施

## 各校の取組テーマ例

- 自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
- 目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
- 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
- ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 文理の枠を超えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

## 各校の達成指標例（授業アンケート等に盛り込む）

- ・ 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的・自発的に取り組むことができた
- ・ 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた
- ・ 授業や単元の始まりに目標を確認することができた
- ・ 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた
- ・ 授業や家庭学習でICT機器を効果的に活用することができた
- ・ 授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる
- ・ 授業の中で各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った
- ・ 他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた
- ・ 学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	25	学校名	富士河口湖高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	445 名
スクールポリシー (学力に関するもの)	② 基礎学力の定着とともに、個に応じた確実な学力向上を図るため、主体的で対話的な深い学びにつながる授業の工夫に努めます。 ④ 「総合的な探究の時間(KIP: Kawako Insight Program)」における探究活動を通して、地域の魅力や課題について考え、地域の活性化や課題解決に向けた主体的・協働的な学びに取り組みます。						
グラデュエーション ポリシー	① 高い目標に向かって、主体的に学び、ひたむきに努力する力を育成します。 ② 社会性・規範意識をもち、他者を思いやるゆたかな心を育成します。 ③ 確かな学力と幅広い教養を身につけ、協働して課題を解決する力を育成します。 ④ 自己のあり方・生き方について考え、自己を表現する力を育成します。 ⑤ 地域の魅力や課題を学び、将来地域の人材として活躍できる力を育成します。						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ

自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
ICTの利活用による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組

- ・年間指導計画の作成と配布。
- ・授業力向上推進会議の実施と情報交換。
- ・授業アンケートの実施と中間評価及び、結果の分析と共有。
- ・校内研修の実施。
- ・学校HPを通じた、生徒・保護者・地域社会への取り組みの情報公開。

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)

(各校の授業アンケートに基づく)	R7中間	R7末
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	83.9%	80.8%
2.引用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	63.0%	63.8%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	68.4%	71.3%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	60.4%	64.8%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	66.4%	80.3%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	80.5%	86.1%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	65.2%	74.6%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	82.1%	90.0%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	82.6%	88.6%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)

自発的な学習や自主的な学習については、なかなか生徒に定着しきれない部分がある。生徒自身が学習の楽しさや必要性を感じるような取り組みが必要と考えられる。また、健康的な生活や部活動とのバランスを取り、家庭学習の習慣をつけていくことが課題である。考える。そのために、学習課題の適切な設定や、学習ツールの見直し、ICT機器の活用などを進め、生徒が各自で学習する環境を整える必要がある。ICT機器の活用については、実践例が増えてきたことや、機器の取り扱いに慣れてきたこと、使用できるコンテンツが増えてきたことなどの要因により、達成度が上がっていると考えられる。ただ、ICT機器の使用自体が自己目的してしまうくらいもあるため、機器の使用目的を見定めること、単元の習得目標を達成するための手段として、最も適切な手段を検討することが求められる。他と協働した授業についても、単元の習得目標を達成するために、必要な手段の一つとして捉え、授業の目標に対して適切な学び方を選定する必要がある。その中で旧来の授業手法から変化の見られない場合は、ICTの活用をはじめ、話し合い活動などの協働的な学びを実験的に取り入れてみることも必要と思われる。また、習熟度に応じた発展的な学習を随時取り入れることも求められる。

各教科の取組	※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	実社会に必要な国語の基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、日頃の生活の中で活用することができる。	3.6	3.8	知識の定着度や表現技能で不十分な面が見えたので、小テストや定期試験、模擬試験を通して知識技能の定着、向上を図る。
	自らの考えを論理的に表現することや、他人の考えを的確に理解したり共感を示したりするような、言語活動を積極的に行うことができる。	3.7	3.9	グループ活動等を通じて積極的に言語活動に取り組んだ。しかし、これで十分というものはないので、来年度も継続して取り組んでいく。
	意欲的に読書を行い、生涯に渡って読書に親しむ読書力の素地を養う。また、自らの生き方の幅を広げるための文章を選び探るための参考とすべく、作者や文学史に関心を持つことができる。	3.7	3.6	朝読書や読書会、図書館フェア等を実施し、読書に親しむ環境を作った。ただし、生徒間で温度差があったので、より多くの生徒が熱心に取り組めるようにイベントを企画していく。
地公	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活や文化の地域的特色についての理解を深めるとともに、歴史的・地理的事象を的確に把握し、自主的・意欲的に学習することができる。	3.8	3.7	資料を読み取り、現状を理解することはできているが、派生した情報を関連付けたりする力に乏しいため、知識を関連づけさせることを考えさせたい。
	人間尊重の精神に基づいて青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めることができる。	3.9	3.5	グループ活動等を通じて、他者との協働・共生という考えを深めることが出来た。ノーマライゼーションという観点からも、人間尊重という考え方を養えたらと思う。
	主権者意識の形成を図り、生涯学習に通じる実用的知識の育成や社会への対応をすることができる。	3.8	3.4	主権者教育に注力し、模擬投票や地域社会への理解を深めるテーマ学習を行い、地域とのつながりという観点から指導する。
数学	事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	3.6	3.5	数学として定式化された問題を処理する力は着実に定着してきている。しかし、身近な事象を数学の問いとしてモデル化することには、未だ課題が多い。
	数学と人間の活動との関わりに着目し「事象」に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	3.5	3.3	身近な現象に数学を見出す活動ができた。未だ課題は多いが、主体的に学び、考察しようとする姿勢が身についた。
	数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。	3.7	3.5	問題解決までの過程を、数学の言葉で論述し、他者に伝えようとするための指導ができた。しかし、考察における粘り強さや議論を振り返っての考察については、未だ課題が多い。
理科	自然の事象・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。	3.6	3.6	課題を通して知識の定着を図ることができた。しかし、原理や原則、実験の技能の定着に課題が多い。定期試験や小テストによる評価が中心となったので、その他の評価方法を研究していきたい。
	自然の事象・現象から問題を見いだすことができる。見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現することができる。	3.6	3.5	観察・実験レポートから思考力や表現力を定着を図ることができた。しかし、十分な授業時間が確保できないために、実施回数が限定的だった。定期試験やレポートの内容で改善に努めていきたい。
	自然の事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究することができる。	3.6	3.5	課題や授業に対して意欲的に取り組める生徒が多い。しかし、見通しをもって学習に取り組む生徒が少ない。ポートフォリオなどを活用し、教科として生徒に見通しをもって学習に取り組む仕組みを作っていく。
英語	英語の特徴やきまりへの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	3.5	3.5	定期考査などの事前準備ができる状況においては一定の成果を上げることができたが、即興で答えを求められる場面においては不十分であった。
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、これらを活用して適切に伝え合ったりしている。	3.4	3.6	数多くのパフォーマンステストをこなすことで、目的場面状況に合う英語を使用することに慣れはした。ただし、生成AIや翻訳ソフトに頼りすぎな部分も否定できない。
	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的かつ自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	3.5	3.6	ALTとの交流等を体験することで、言語としての英語そのものの知識のみならず、使用者の文化的背景などを尊重するようなコミュニケーションを心がけることができた。
芸術	芸術に関する各科目の特性について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	3.8	4	各科目の特性について理解を深め、自己の考え方や発想を大切にしながら、意図に基づき表現ができるよう技能を身に付ける指導する。
	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	3.9	4	芸術各科目の様々な創作活動を通して、表現の持つ特徴を生かせるよう留意し、芸術のよさや美しさを味わうことができる指導をする。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	3.8	4	感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うためにも、鑑賞の体験を深め内容の充実を図る。
家庭	生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容を理解し、基礎的な技能を身につける。	3.9	3.8	生活に必要な基礎的な知識や技能は身に付いている生徒が多い。生活に密接した知識や技能を習得させるための教材を工夫していきたい。
	生活の中から課題を見出し、課題解決に取り組み、思考判断し、結果を表現できる。	3.8	3.7	ホームプロジェクトにおいて、課題解決学習に取り組むことができた。実生活においても、課題意識を持ち、よりよい生活を営めるように指導していきたい。
	様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。	3.8	3.8	授業内でのグループごとの話し合いや調べ学習を多く取り入れ、生活向上に必要なことを思考し、判断して生活に結びつけられるようにしていく。
保体	各運動で学ぶ技術の名称やその行い方及び健康・安全に関する内容を総合的に理解し、運動の楽しさや喜びを深く味わうための技能を身につけることができる。	3.8	3.9	生徒の取り組みの様子や学習レポートから、安全に留意し、基本的な体の動かし方を身につけていた。実践的な動きの場面で、基本動作が崩れてしまう部分が課題である。
	運動や健康についての課題を見つけ、解決に向け、思考、判断し、自らの考えを表現することができる。	3.9	3.9	学習レポートの内容から、学ぶべきことは理解しているようだが、自分の体の動かし方を言語化できない生徒が多く、自らの考えを表現することについては課題が残る。
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、自己に適した運動の計画を立て、実生活に役立てようとしている。	3.8	3.8	意欲的に取り組んでいる生徒が多く、授業内で、他者との関わりを積極的におこなっていた。実生活で運動を継続して行うことや、苦手意識を克服することに課題が残る。
情報	多様なコミュニケーションの実現、コンピュータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会における多様な関わりについて理解を深めるようにする。	3.5	3.5	多様なコミュニケーションの手段として基礎的な内容を身につけることができた。コンピュータの活用については個人差はあるが、基本的な事柄が身に付いていない生徒も多く見受けられることが課題である。
	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見、解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	3.4	3.4	様々な事象がある中で自分ごととして解決に向かう態度を養うことができた生徒がいる一方で、様々な事象を情報とその結びつきとして捉えることができていない生徒が一定数いることが課題である。
	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	3.5	3.5	他者と対話を行うことにより、自らの学びに活かそうとする態度が見受けられた。その一方で日常生活と関連させた際に主体性に欠けることが課題である。
総探	地域の実情や課題、地域の様々な施設や教育機関について学び、自らの将来について意識し、把握する。上級生が取り組んだ課題や新たに生まれた問題を引継ぎ、継続的・発展的な探究を目指す。	--	3.8	地域の実情や課題などについて学ぶことと並行して、探究の実践的な手法を身に付けていく。上級生が取り組んだ課題や新たに生まれた問題を引継ぎ、継続的・発展的な探究を目指す。
	地域の抱える課題や県内外の社会問題について、主体的・協働的な活動を通して解決策を考える。未解決課題や、新たに生まれた問題点については、次の学年に引き継いでいく。	--	3.7	地域の抱える課題や県内外の社会問題について、主体的・協働的な活動を通して解決策を考える。特に実態調査については、フィールドワークやインタビュー形式の情報収集をさらに実施する。
	1・2年次の学習をベースに、進路実現に向けて社会との関わりを考え、高校生としての考えを発信する。	--	3.7	1・2年次の学習をベースに、進路実現に向けて社会との関わりを考える。高校生としての考えを発信するとともに、進路を見定める視点を養う。